

令和5年度 第1回 総合教育会議 会議録

開催日時	令和5年6月13日(火) 午後1時25分から午後3時15分				
開催場所	本庁舎 602・603会議室				
会議出席状況	市長	相馬 憲一	出席		
	教育長	篠山 充	出席		
	教育委員	深澤 道昭	出席	川上 聖子	出席
		小林 朋子	出席	森 泉	出席
		渡邊 英憲	出席		
	事務局	教育部長	君島 敬	教育総務課長	羽石 剛
		学校教育課長	小室 和徳	生涯学習課長	岡 一弘
		文化振興課長	墨谷 薫	文化振興課 市史編さん係長	小林 理佳
		教育総務課 (事務局)	遠山 多恵	教育総務課 (事務局)	田中 智子

次 第

- | | |
|------------------------------|----------|
| 1 開 会 | 午後1時25分～ |
| 2 あいさつ | 市 長 |
| 3 講 話 | |
| 大田原市史セミナー（自然部門）「大田原の大地の成り立ち」 | |
| 大田原市史編さん委員会専門部会（自然部会）伴 敦志氏 | |
| 4 議 題 | |
| 地域学校協働本部の設置について【生涯学習課】 | |
| 5 その他 | |
| 6 閉 会 | 午後3時15分 |
| 7 会議要旨 | 次のとおり |

○講 師

蜂巢小に勤務していたこともありますので懐かしくなりました。蜂巢は台地の上で、火山灰層が乗らないでしっかり上まで礫がたまっているところ。火山灰層が分厚いと揺れが大きくなります。高根沢町でも被害が大きかったのですが、ローム層という赤土の層が厚いため被害が大きくなっています。ローム層が薄いところではそれほど被害は大きくないということが調査報告で分かっています。

大田原では、湯津上地区の震度が大きく出やすいとよく言われますが、湯津上庁舎の下は100万年以上前の古い砂利だけがたまった地層のうえに、ローム層がかなり分厚く乗っています。市史の方でもボーリングデータをとりましたが、かなり深く掘らないと安定しない場所で、そこに支所を置いた関係で震度計を設置したのかと思いますが、昔の湯津上村役場があったところでは比較的普通の震度が出るのではないかなという印象を持ちます。

本庁舎のデータも見ましたが、火砕流堆積物があります。これは安定地盤なので、本庁でとった震度は体感に等しい震度が出ていると思われ。本庁舎をここに建てたことはよかったと思います。私自身も、この場所でボーリング調査を行ってほしいなと以前から思っていました。必ず火砕流堆積物が出ると思っていたところ、予想通りの深度で出たという経緯があります。

○小林委員

黒羽地区の地盤は岩盤で強いので、これから家を建てる人は黒羽に建てるというのではないかと思います。

○講 師

黒羽支所のデータも市史に出させていただきましたが、すぐ下に岩盤がありますので比較的安定した地盤ですね。東日本大震災の時も、本庁舎より震源に近いのに揺れは弱かったです。

自然災害は地形地質によって違ってきます。矢板では赤土の土地を造成した場所で崩れが起きてしまいました。やはり足元を知るといのは安全な生活を送る上で欠かせません。しかしそのような研究者を増やしたいのですがなかなか増えないというのが現状です。

○市 長

お話の「八溝山で花崗岩が出た」ということについて、八溝の山には工事がしにくい、崩れやすいというところがあり、マンガンも取れるということなので、海底が盛り上がって出来たんだろうなと考えます。（亀久の東京石材さんの花崗岩が有名です。）

花崗岩にまつわる話で一つお聞きしたいのが、花崗岩が取れる場所の近くでは金がとれる、というのは本当なのでしょうか。

というのも須賀川地区はもともと金の採掘がされていて、馬頭や武茂川沿いにずっと金が採れると聞いたことがあります。

それから、羽田丘陵は川で削られたとのことでしたが、昔は那珂川が羽田のあたりで流れていたということでしょうか。

2点ご教示ください。

○講 師

花崗岩が出るところで金が採れる、というのはその通りです。マグマの成分に含まれている金が出出するのですが、もともとのマグマの成分にどれくらいの割合で金が含まれているか、ということになります。マグマによって、それが大量にあるところでは金が採れ、金の成分が失われているところでは期待したほどは出てこないということがあります。花崗岩地帯で金が採れるのは実際にあり得る話です。

羽田丘陵につきましてはご質問のとおりで、もともとの那珂川の川筋が何度も変わっていますので、そのうちの一本の那珂川が削り出したと考えて、地形的に間違いありません。

○教育総務課長

ほかにご質問はよろしいでしょうか。
皆様はこのあと別のご用がございますので、本日はここでご退席となります。本日は誠にありがとうございました。

○教育総務課長

それではここからは議事となりますので、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき相馬市長に進行をお願いいたします。

○市 長

円滑な議事運営に努めさせていただきますので、ご協力のほどよろしくをお願いいたします。
本日の議題は、次第4に記載のとおり1件でございます。
地域学校協働本部の設置について生涯学習課長からご説明いたします。

○生涯学習課長

(説明)

○市 長

事務局の説明が終わりましたので協議に入ります。
質疑に入る前に確認を一点。地域学校協働本部は学校教育法で実施することになっていますか。

○生涯学習課長

地域学校協働本部自体には法による規定はありません。地域によって異なり法律で一律に決めることはできませんので法律の規定はありませんが、市として支援しなければいけないという規定がございます。

○市 長

設置は義務付けられていない、ということですね。

○生涯学習課長

中央教育審議会答申において、社会に開かれた教育課程の実現としてこのような地域学校協働活動を実施すべきとされています。法律的な規定はありませんが、行うべきものと思われま

協議会の提案に対して本部が連携協働していくということは、両方の組織に配置されないことが想定されているように思います。組織の役割、組織づくりの具体性についてはどのように考えますか。

○生涯学習課長

地域がら人口減少が進んでおり、構成員が同じ方になることは十分考えられます。両方に同じ方が役員として入ったとしても、地域学校協働本部については下部組織（実施組織）の方にメンバーに入っていないかと考えております。

人数的な問題をご指摘のとおりですが、協働本部については組織として動くことを国も示しておりますので、両組織を兼務することになったとしても、実際に活動する方は違う方（実際に動く方）にお願いするような体制を取れば、と考えております。

○深澤委員

すでに学校運営協議会ができ充分機能している地域においてなお地域学校協働本部を立ち上げるとなると、学校運営協議会よりも広い範囲のひとたちに構成員として入ってもらうことになると思います。

学校運営協議会で完結しているものをもう少し整理して、協働本部と協議会の役割分担を整理してスタートしていけば、より中身の深い連携事業ができると感じます。

ただそういう組織・役割が重なっていくと地域の負担は大きくなります。

親園でスタートしてみるということですので、しっかり検証・整理してスタートしてもらえれば。

○小林委員

学校運営協議会の中で、地域の方が「川を掃除するので中学生からボランティアだしてもらえないか」といった依頼などの話をされていました。そうしたものは今後協働本部の役割になるかと思いますが、現在は学校運営協議会で進めています。

何年か前に中学校区で始まった「学校運営協議会」と今後立ち上げる「協働本部」においては、役割分担の線引きが難しいために協議会から多くの意見や疑問が出ているのだと思います。そうした部分について、今年度親園学区を進めながら整理していただくと明確になって分かりやすくなると思います。

具体的に今やっていることをどう分担するか、役員も重なるところをどう整理していくのか、考えていくといいと思います。

○森委員

私が今年第1回目の親園学区と若草学区の協議会に出席したときの印象ですが。

今小林委員が言ったように、メンバーが完全にバッティングし協議会のメンバーが必ず協働本部に入ってくるようになっております。深澤委員が言われるように、それ以外のメンバーや団体にも入ってもらうことになるのかと思います。

協議会は学校で教頭先生が事務局を担っていますが、最終的な目標というのは地域がもつべきコミュニティスクールで、大田原は小中一貫と一緒に始まりました。協議会の無い市町村にとっては良いと思いますが、事務局を学校から地域に移行することも進まない中で更に地域内組織を作ることに心配があります。

若草中の協議会では、「『学校』という言葉が入ると学校が関わらざるを得なくなるが、地域のお祭りやイベントには学校ではなく『子供』を巻き込む形で進めてもらいたい」という話も出ていました。

今すでにある「学校運営協議会」のなかでやるといいのではないかと思います。

○川上委員

「本部」は上の組織で「協議会」は下部組織、とのイメージがあります。親園地区内に協議会と本部があるという形ではなく、各地域をまとめる大田原市全体の「本部」があって、各協議会の困りごとや意見を吸い上げて支援できるのであれば分かりやすいと思います。同じ地区に協議会と本部がある体系はどうか変えられないのでしょうか。

○生涯学習課

一つの中学校区に対し一つの本部、ということで進めて参りますが、学校と公民館と本部の合同研修会というものを毎年2回行いますので情報共有はできると考えます。

今回親園地区をモデル地区として立ち上げましたが、合同研修会を通じて、設置経過等を各地区の参考にしたいと思っております。

○教育部長

様々なご意見をいただきましてありがとうございました。私どもとしては現場の混乱を招くことがないように、頂いたご意見をもう一度整理し導入に向けて何が必要なのか検討・対応して参りたいと思います。

○市 長

親園中学校区をモデル地区としてこれから具体的に進めるということですが、社会教育施設で行っていることをどれくらい行うのか、地域学校協働本部がどの程度学校に関わるのかということもイメージが難しいと思います。毎日のことなのか、毎週やるべきことはあるのか、カリキュラムを作って進めていけるのかということもご心配されてのご発言と思いますので、教育部長が申しましたように部内等で検討し皆様にお示ししてまいりたいと思います。

○市 長

ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了させていただきます。

滞りなく議事を進行することができましたことに感謝申し上げます。

また、今後とも市政全般にわたりご理解とご協力をいただけます

ようお願い申し上げます。議長を解任させていただきます。ありがとうございました。

○教育総務課長

ありがとうございました。
次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何かございますか。

○教育総務課長

ありがとうございました。
以上で、第1回総合教育会議を閉会いたします。

閉会 (午後3時15分)